実践例４

## １　研究テーマ

興味をもって読ませるための工夫　～楽しい長文読解入門～

## ２　テーマ設定の意図

まとまった長い文章を読むことは、日本語でも難しいと考えている生徒は多い。まして英語の長文となると、それだけで抵抗感をしめす生徒もいる。また、長文を「読むこと」を中心とした授業は、生徒が活発に活動することが少なく「楽しさ」を求める生徒の興味・関心を高めるのは容易ではない。

本研究では、こうした長文に対する抵抗感を軽減し、楽しみながら英文に触れる機会を多くする活動の開発に取り組んだ。入門期として、教科書のまとまった文章を一人で読み進めることよりも、グループやペア活動を活用し、学び合いながら読み進める活動に焦点をあてた。また、一人で読み進めるための技術や能力習得のために「音読」にも注目し、興味を持って活動に取り組めるよう工夫した。

## ３　調査研究の内容

小グループでの活動を取り入れた「学び合い、助け合い、楽しみながら進める読む活動」について研究し、その効果について考察する。

（１）Speed Reading　＝協力しながら英文を一人で読めるようにする活動

グループ（3～4 人）で１～２ページの文章を１人 1 sentence ごとに輪番で音読し、全文読み終わるまでの時間を測定する。事前活動としてグループ内での音読練習を行い､互いに教え合い､助け合いながら全員が全文を一人で音読できるようにする活動。

（２）Paragraph Card Reading　=まとまった英文を読むことへの抵抗感をなくす活動

グループ（３～４人）で、１つの長文を段落ごとに分けて書かれたカードを分担して読み、その内容について説明したり、自分が担当する段落にかかわる課題や発問に答えたり、協力して文章全体の内容把握をする活動。

（３）Picture Card を活用した活動

＝文章の内容把握を援助する活動から、説明する活動へ

ア　並べ替え…段落の内容が描かれた絵を文章の流れにそって並べ替える。Paragraph Card Reading と併用して行うこともできる活動。

イ　Story Telling…絵の内容について英語で説明する。主に、内容把握の最終確認で行っている。発展的な活動として、読解前に内容を予測することを目的に行うことも内容把握の一助として期待できる活動。

## ４　指導案

### 第３学年〇組　英語科学習活動案

（１）教　材　Listening Plus 6 「２０世紀のスター」

（NEW HORIZON English Course 3　東京書籍）

（２） 教材について

ア　題材について

本課は２０世紀に活躍した偉人を取り上げ、その生い立ちや偉業について本文を通して学ぶ前課 Unit 6 の内容をさらに深める題材である。前課ではアメリカ人科学者レイチェル・カーソン（CARSON, Rachel Louise *1907-64*）の生い立ち、*Silent Spring* などの著作に触れることから、彼女のことについて調べたいという探究心を持たせることを目標として。本課では、その探究心をさらに高めるため、２０世紀に限らず、地元の偉人や自分の生き方に影響を与えた人物などを調べ、その人物について英語のレポートにまとめる活動へと発展させることを目標とした。

本課は、Listening 活動が中心であるが、毎時間英語の歌を歌っている生徒にはなじみのある John Lennon が題材として扱われていることから、その内容を読み物教材として活用することとした。この学習を通じ、日本以外の国の人々について知ることで英語学習への興味、関心を高めたい。さらに、好きな人物について、その人の偉業など英語を通して世界へ発信していくことにも興味や喜びを感じることのできる時間とさせたい。

イ　言語材料に関して

本課での新出言語材料は関係代名詞の主格ならびに目的格の使い方である。関係代名詞の使い方は生徒が理解し、使えるようになるまでに時間のかかるものであると感じている。まずは、文法的なことよりも「後置修飾」としての働きに注目させたい。そして、関係代名詞を含んだ様々な文章に触れさせ、この表現になれることから定着へと結びつけていきたい。また、身近な物や人について説明させることからも定着へ迫っていきたい。

ウ　読解力の育成に関して

英語科では PISA 型「読解力（情報を取り出す→解釈する→自分の考え・意見をもつ→表現する）」を「話を聞いたり、文章を読み取ったりしたことについて、自分の考えを簡潔に英語で表現できる能力」ととらえた。そのためには、まず話の内容や書かれた文章の内容を把握する必要がある。そこで本課の授業では主に「文章を読み取る」部分に焦点をあて、『読み取った内容を正しく伝えることができる』ことを目標に展開することとした。

まとまった文章（生徒が長いと感じる文章）を読む場合、全体を見てしまうとそれだけで抵抗を感じ、読むこと自体から目を背けてしまう生徒もいる。そこで、段落を意識した読み方 “Paragraph　Reading”に取り組むことからその能力向上に迫りたい。課題（Task）についてもその答えを探すのではなく、「全体の内容を把握する手助け」であるという意識を持たせながら与えたい。

（３）生徒の実態

～　省略　～

（４） 指導目標

John Lennon に関する英文を聞いたり、読んだりして、その内容について理解するとともに、地元の偉人や自分の生き方に影響を与えた人物などを調べ、その人物に

ついて既習の表現や新たな表現を用いて英語のレポートにまとめ書けるようにする。

5　本課の評価の観点・評価規準など

| 評価の観点 | 内容のまとまりと本課の評価規準 | | 評価方法等 |
|---|---|---|---|
| 1コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | L | ・内容を聞き取ろうと、積極的に英文を聞いている。 | 活動の観察 |
| | R1 | ・内容を読み取ろうと、積極的に英文を読んでいる。 | |
| | R2 | ・教え合い、助け合いながら音読練習に取り組むことができる。 | 活動の観察<br>自己・相互評価 |
| | W | ・自分の生き方に影響を与えた人物についてのレポートを作成するために努力している。 | ﾜｰｸｼｰﾄ<br>レポート |
| 2表現の能力 | W1 | ・身近な物や人について関係代名詞の主格・目的格を用いて説明することができる。 | ﾜｰｸｼｰﾄ |
| | W2 | ・自分の生き方に影響を与えた人物について適した表現を用いてレポートにまとめることができる。 | レポート |
| 3理解の能力 | R | ・教科書の本文の内容を正しく読みとることができる。 | ﾜｰｸｼｰﾄ |
| | L | ・本文の内容を正しく聞き取ることができる。 | 活動の観察 |
| 4言語や文化についての知識理解 | W | ・本文で使われている関係代名詞の働きを理解し、正しく使う（言う、書く）ことができる。 | 活動の観察<br>ﾜｰｸｼｰﾄ |

6．　単元の指導と評価計画（3時間扱い）

| 時 | 主な目標 | 主な学習活動 | 評価の観点 |
|---|---|---|---|
| 1 | ① 単元の目標を知らせる。<br>② Speed Reading に備え教科書の音読ができるようにする。<br>③ John Lennon に関する英語を聞いて興味をもたせる。<br>④ グループ内で聞き取った内容を確認させる。<br>⑤ レポートについて説明し，理解させる。 | ① 単元の目標を理解する。<br>② グループ内でリーダーを中心に音読練習を行う。<br>③ 課題プリントの聞き取りのポイントを押さえながら英語を聞く。<br>④ グループ内で課題についての答え合わせを行い内容を確認する。<br>⑤ レポートについて説明を聞く。 | 1－R 2<br>1－L<br>3－L |
| 2<br>本<br>時 | ① Speed Reading に個人で取り組ませる。<br>② Speed Reading に備え教科書の音読ができるようにする。<br>③ Paragraph Card Reading を行いグループ内で長文の内容把握に取り組ませる。 | ① 教科書の音読練習を行い、個人のタイム測定を行う。<br>② 1時目と同様<br>③ 各自与えられたカードを読み、その内容に関わる課題について答える。 | 1－R 2<br>1－R 1<br>3－R |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ④ 内容確認をさせる。<br><br>⑤ クラス全体で内容を確認させる。 | ④ グループ内でカードを見せ合い内容について確認する。<br>⑤ 各グループの代表が本文内容について説明する。 | ３－Ｌ |
| 3 | ① Speed Reading を行う。<br><br>② 前時の内容について復習する。Picture Card を内容にそって並べ替えることで､内容把握の確認をさせる。<br>③ レポート作成の準備を始める。<br><br>④ レポートの作成を始める。 | ① １人１sentence ごとに輪番で音読し、全文読み終わるまでの時間を測定する。<br>② 前時の内容について、Picture Card をその内容にそって並べ替える。<br>③ 地元の偉人や自分の生き方に影響を与えた人物について関係代名詞を用いて一文で説明する。<br>④ 地元の偉人や自分の生き方に影響を与えた人物など既習表現や新しい表現を用いて、５文以上のレポートにまとめる。 | １－Ｒ２<br><br>１－Ｒ１<br><br>２－Ｗ１<br><br>２－Ｗ２ |

７．本時の学習（本時　第２時）

（１）本時のねらい

John Lennon について書かれた文章をグループ内で分担し読み進め、その内容についての課題に答えながら内容を確認する活動に取り組み、そこで得られた情報を基にまとまった英文全体の内容を把握できるようにする。

（２）教具　ＣＤ、ワークシート

（３）展開

| 過程 | 学習活動・学習内容 | ・指導上の留意点　●評価 |
|---|---|---|
| 導入<br><br>復習<br><br>20 | １あいさつ<br>２ Song “IMAGINE”<br><br>３ Speed Reading<br>① 個人で本文全文を音読し、その時間を測定する。<br>② グループ内で音読練習する。 | ・英語学習の雰囲気を作る<br>・本時の話題となるJohn Lennonの曲を歌い興味付けを図る。<br>●１－Ｒ２　前時のグループ練習の成果を生徒自身が確認する場とする。<br><br>・個人読みの反省をし、グループ内で互いに助け合いながら向上させる。 |

| | | |
|---|---|---|
| 展開<br><br>25 | 4　Paragraph Card Reading<br>①　活動内容についての確認<br><br>1.　各自に配られたカード（１～２枚）を読み、その内容についてﾜｰｸｼｰﾄの課題に答える。<br>2.　他の人と相談してはいけない。まずは自分の力で読んでみよう。<br>3.　リーダーを中心に課題に対して口頭で答えよう。<br>4.　最後に全員でカードを見せ合って最終確認をしよう。 | |
| | ②　Reading Time<br>各自自分に与えられたカードについて読み進める。 | ●１－Ｒ１、３－Ｒ<br>自分のカードの内容については責任をもって読ませる。辞書などを活用し独自で取り組むよう促す。 |
| | ③　Answer Time<br>リーダーを中心にﾜｰｸｼｰﾄを読みながら各自答えられる内容について日本語で答えたり説明したりする。 | ・積極的に活動に参加し、課題に答えるよう声かけをする。 |
| | ④　Final Answer Time<br>グループ内全員でカードを見合わせて内容に付いての最終確認を行う。 | ●３－Ｒ　課題に適した答えになっているか。 |
| | ⑤　クラス全体での内容確認 | ・グループ内での確認が正しいかどうかを確認させる。 |
| まとめ<br>5 | ７．本時のまとめ<br>まとめを記入したワークシートを提出する。<br><br>８．あいさつ | |

（４）　評価　「内容を確認する活動に取り組み、そこで得られた情報を元にまとまった英文全体の内容を把握できるようにする」について

次回の授業において Picture Card を活用し、ないように沿って並べ替える活動や発問等を変えて再度同じ英文を読み返す課題などから評価をする。継続的に工夫を凝らしながら長文読解に取り組ませることで読解力の向上に努めていきたい。

＜授業で用いたワークシート等＞

**Paragraph Reading Card**

＊英文　Listening Plus 6 「２０世紀のスター」（NEW HORIZON English Course 3　東京書籍）より

We're doing a report on John Lennon. He was born in England in 1940.
When he was young, he made a rock group with some friends. In 1960 they became the Beatles. They soon became the most popular singers in the world.

*Yesterday* and *Let It Be* are two of their most popular songs.
In 1966 the Beatles came to Japan and played five concerts at *Nippon Budokan*.

In 1970 the Beatles stopped playing music as a group. But he didn't stop singing.
He became a solo singer. His most famous song is *Imagine*. It was written in 1971.

Many of his songs have a message. He always hoped for love and peace.
On December 8, 1980, he was killed in front of his home. He was only 40 years old.

段落ごとにカードをつくり、それぞれのセットを各グループに配布。グループ内では無作為にカードを選ばせる。が、状況によってはリーダーの判断でカードを取り替えても良い。

## *John Lennon* の年表を完成させよう！

| | |
|---|---|
| 年 | イングランド生まれ |
| 年 | ビートルズ結成 |
| 年 | （　　）で（　　）回の来日公演 |
| 年 | グループが活動を停止する |
| １９７１年 | （　　）活動開始。「（　　）」発表 |
| 年 | （　　）月（　　）日、自宅前で射殺される。（　　）歳 |

ビートルズの代表曲２曲

（　　）（　　）

John Lennon のメッセージ　（　　）＆（　　）

Picture Card の活用
本文の流れに沿って並べ替えたり、内容にあった絵を選ぶなどバリエーションが豊富であり、生徒も楽しみながら内容理解に挑戦できる。左は全体での確認の様子であるが、カードを小さくすればグループ活動でも活用できる。

## ５　分析と考察

本研究授業では、長文読解に対していかに生徒の興味を引き出し取り組ませるかに焦点をあてた。生徒の取組を見ると、各自が与えられた文章に対して責任をもって読まなければならいという思いとグループで協力して活動する安心感が、取り組む意欲を向上させたと考えられる。また、この活動の後にレポートを作成するという大きな目的をもたせたことから、この文章を参考にしようという思いも活動への動機付けとなっていることも生徒の言動活動の様子から感じることができた。やはり、読解力といえども「読むこと」だけでなく他の３技能と絡めて指導していくことの重要性を改めて感じることができた。

しかし、本来の「読解力」について考えたとき、やはり「書かれたテキスト」を「読んで理解する」という本質に立ち返った指導も必要であろう。後日行った「めざせ一人～Reading 編」までを含めた活動を積み重ねていくことで「読解力」の育成につながっていくのではないかと思う。

本研究では「読解力の育成」を目指してきたが、「読む」ことだけを追究するだけでは生徒の興味・関心を高めることは難しい、すなわち「読解力の育成」は難しい。実質的に英語科の目標とする４技能（話す、聞く、書く、読む）をバランスよく向上させることが大切であると改めて感じた。「読んだ内容を発表する」、「読んだ内容を話し合う」、「読んだ内容から考えを書く」、「読んで返事を書く」など、それぞれの技能をリンクさせることで「読むこと」への意欲を高め、語彙や必要表現の習得を促し、向上へとつながっていくと考える。

## ６　成果と課題

長文の読解力を向上させるには、多くの文章に触れさせ、じっくり読む時間を確保することが大切である。今回の授業では、パラグラフリーディングの要素をグループ学習に導入し、一人の生徒が読む文章の量を減らすことで抵抗感を軽減できた。また、課題に対し「読まなければならない」という使命感をもたすことで、文章読解への動機付けを図ることもできた。長文と聞いただけで抵抗し、取り組むことのできなかった生徒も、「これならできるかも」と挑戦することができた。しかし、これはあくまでも「入門」。この活動では英文の量が少なく、ものたりなさを感じてしまう生徒もいる。

今後は、この活動を続けながら長文読解に慣れさせるとともに、生徒の実態に応じてさらに長い文章に挑戦できるような課題設定の工夫が必要となろう。様々な文章に触れ、自主的に英文を「読みたくなる」多読を用いた課題や、その内容から自分の考えをまとめるために文章を「読まなければならない」課題を設定するなど、生徒の興味を引き出しながら英文に触れさせることで読解力の向上を図るための授業改善に努めていきたい。